小鯖

# 小鯖小学校だより 7月号

令和元年 7月 1日
山口市立小鯖小学校

【めざす児童像】　お：思いやりのある子　さ：さわやか元気な子　ば：ばっちり学ぶ子

## 望ましい友人関係を…！

校長　髙　田　修　司

だんだんと学校生活に慣れてくるにつれて、友だちとうまくいかない、私のことをわかってくれない、などと、子どもたちに友人関係の悩みが少しずつ出始めています。

前向きに考えるなら、トラブルを経験することで学べることもある！とも言えそうですが、高学年ともなれば、仲良しグループに入るために「○○さんに睨まれないように。」とか「△△くんが好きなことを覚えとこう…。」など、子どもながら気を遣っていることも多いようです。

望ましい友人関係とは、違いを認め合いながら互いを理解し、尊重し合って成り立つべきものでしょうが、前出の例ではヘンな力関係に基づいたグループ集団ですから、些細なことから仲間はずれや分裂等が起こってしまい、前述のような悩みにつながるようです。

♪友だち１００人…♪よりも、一人の親友の方がよっぽど大切、という人もいます。

「八方美人」に親友はいない、という人もいます。

あちらにもこちらにもいい顔をしようとすると、Ａさんと話している時はいかにも○○が好み、という話をし、Ｂさんと話している時は△△が好き、という風に話してしまい、周囲から見ると「あなたは本当は何が好きなの？」という風になってしまいます。

つまり周囲は「あなたがどんな人なのかわからない。」という状態になるのです。

ましてや最近では、「空気を読んで合わせる」ことが最重要課題になっており、（広い意味では「思いやり」とも言えなくはないのですが…）「Ｎｏ！」と言ったり、正論を述べたりすることがなかなか難しくなっています。

このような気疲れする友人関係から脱皮し、真の友人関係を築くためのコツは、まずは自分が好きなことに一生懸命打ち込むことです。

そうすることで、確実に自分が輝けるからです。

さらに言葉や態度で、自分が何が好きか、ということをきちんと発信することができればさらに効果的です。

言葉遣いやトーン（まさに空気を読みながら）などは、自分なりの方法を見つけ出さないといけませんが、その部分はまさに学習であり訓練ですね。

ところで…、最悪の友人関係とはどういう友人関係だと思われますか？

それは「誰かの悪口を言い合うことによって成り立っている関係」です。

悲しいかな、人は「誰かを褒めあう」ことより「誰かをけなし合う」ほうが結束しやすい？というイヤな性質をもっているようです。

これらの自覚を促し、それぞれの立場で連携しながら指導を重ねることで、子どもたちには是非とも望ましい友人関係を築いていって欲しいものですね。